

気づき・つながり・支えるいのち支援事業【岡山県岡山市】

(実施期間)	平成 24 年度～	(基金事業メニュー)	強化モデル事業
(実施経費)	平成 24 年度 4,176 千円	(実施主体)	岡山県岡山市

【事業の背景・必要性・目的】

岡山市では平成 21 年度～23 年度にかけて地域自殺対策緊急強化基金を活用し、関係機関と連携し、自殺ハイリスク者の実態調査及び把握したハイリスク者への相談支援事業を実施した。その結果から、自殺に至るまでには複数の要因が複雑に絡み合っており、適切な関係機関と連携して支援を実施することが重要であると考えた。そこで、3 年間の事業で得られた関係機関との連携体制を維持し、自殺ハイリスク者への個別的予防介入及び人材育成を実施するため平成 24 年度から「気づき・つながり・支えるいのち支援事業」を実施している。

【地域の特徴・自殺者数の動向】

当市の平成 23 年度の自殺者数は、厚生労働省の人口動態統計では 144 人（前年比 5 人増）となっており、年間 100 人を超える状況が続いている。

一方、当市では長年、愛育委員会、民生委員会、栄養委員会の地域ボランティアの組織活動が活発であり、声かけや見守り訪問が浸透している。実態調査の結果からもそれらの声かけや訪問を受けている人は、そうでない人に比べて抑うつ、不安傾向、希死念慮及び主観的不健康を感じている人が少ないことが明らかとなった。このことから当市は自殺ハイリスク者を早くキャッチし、必要な支援につなぐための恵まれたコミュニティが元来から存在する地域といえる。

【事業内容】

① 自殺ハイリスク者への相談支援

把握した自殺ハイリスク者へ相談支援を実施し、個別的予防介入を行う。

また、岡山弁護士会と連携し、法律、経済問題を抱えるハイリスク者に弁護士を派遣し相談支援を実施する。

派遣実績・・・1 件（平成 24 年度）

② 救急外来への巡回相談

「気づき・つながり・支えるいのち支援事業」推進員が、救急外来へ定期的に巡回相談を実施し、救急外来の把握するハイリスク者への相談支援及び救急外来職員からのハイリスク者への対応等の相談に応じる。

巡回相談回数・・・延 45 回（岡山市内 7 病院 平成 24 年 9 月～）

③ 関係機関との連携体制の構築

自殺予防のための特別相談会や街頭キャンペーンを共同で実施する中で顔の見える連携体制を構築していく。

特別相談会の開催・・・1回（相談件数7件）

特別相談会のための機関連携会議・・・1回

自殺予防街頭啓発キャンペーン・・・2回

④ 人材育成及び普及啓発

関係機関の職員を対象に自殺についての正しい理解及び対応能力向上のための研修会を開催する。

支援者研修会企画会議の開催・・・1回

支援者研修会の開催 自殺予防のための支援者研修会・・・1回（95名参加）

自死遺族支援者研修・・・1回（39名参加）

救急外来職員向け研修・・・1回（48名参加）

【事業実施にあたっての運営体制】

本事業は、岡山市こころの健康センターが実施主体となり、センター内に事業担当1名と「気づき・つながり・支えるいのち支援事業推進員」（嘱託・精神保健福祉士）1名を配置し実施している

【事業成果・工夫した点・その他特筆すべき点】

平成21年度～23年度に実施した「ハイリスク者への相談支援事業」によって形成された関係機関との連携体制の継続が重要であると考え、平成24年度は、民生委員、愛育委員をはじめとした当該事業の協力者である精神保健福祉関係者等に、実態調査結果に基づく当市の自殺の現状や課題を報告した。

また、「気づき・つながり・支えるいのち支援事業」推進員を配置し、情報共有をはじめとした関係機関の連携体制の構築を図った。なかでも救急外来との機関連携では、市内の主な救急病院を巡回することで現場における自殺未遂者への対応の現状や問題点について把握することができた。また、相談支援機関を記載したリーフレットを作成し、救急外来職員に自殺未遂者等への配布を依頼し、救急外来に搬送された自殺未遂者が当センターの利用や適切な相談機関に相談できるような体制の基盤づくりを行った。

今後も引き続き事業を継続し、特に救急外来への巡回相談体制に重点をおき、自殺ハイリスク者を支援する連携体制の構築を推進していきたい。

（問合せ先） 岡山市保健福祉局保健管理課

TEL :086-803-1251

E-mail: akihiro_tanaka@city.okayama.jp